

ばってん

事務長会報第18号

平成17年10月1日

長崎県公立学校事務長会

長崎西高等学校内
〒852-8014 長崎市竹の久保町12番9号
電話 095-861-5106



ホテルモントール長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

事務長会発足50周年に寄せて

会長 阿比留 徳 生 (長崎西高等学校)



この度、長崎県公立学校事務長会は、発足50周年を迎えました。本会の充実発展に営々と努力してこられた先達の御労苦と業績に思いをいたすとともに深甚の敬意を表したいと思えます。

昭和22年学校教育法が公布され、昭和23年4月1日新制高等学校が発足しました。人口学的特異性を有する「団塊の世代」もこのころ誕生しました。急ごしらえの粗末な施設で学生時代を過ごし、日本経済の黄金時代に最前線で活躍し、バブル崩壊まで経験した世代もあと数年で退職となります。事務長会発足50周年と団塊の世代のイメージが重なるのは、私が団塊の世代の1人であるからかもしれません。

昭和30年4月1日、長崎県は全国に先がけて県立学校に事務長を配置しました。教務、庶務課長制から教頭、事務長、分校長制への移行の経緯については、昭和61年3月退職事務長会と合同で刊行された「30周年記念誌」を是非御一読いただきたいと思えます。その後、昭和43年に管理職員等の指定があり、翌44年から全事務長に一律8%の管理職手当が支給されるようになりました。

昭和49年の教頭法制化を契機として、昭和52年に全国公立学校事務長会が発足しました。地方組織である九州地区公立学校事務長会は、全国の各地区よりやや遅れて昭和53年8月に発足しました。

学校教育法施行規則上「教育活動を円滑かつ効果的に展開し、調和のとれた学校運営が行われるような教職員の組織」として、他の分掌主任と並べて事務長・事務主任制度が設けられました。しかし事務長については、「校長の監督を受け、事務をつかさどる。」とだけ規定され、学校運営上の位置付けや学校経営上の責任と権限が明確ではありません。

全国公立学校事務長会は、「事務長の職務・職制の法制化」、「学校事務組織の整備拡充」及び「事務職員の処遇改善」を事業（活動）計画の3本柱に掲げて活動を展開してきました。事務長の職務権限の確立、職制の法律化こそが会員の永年の懸案であります。

戦後経済の安定と昭和27年以降の中卒者の急増により本県の高等学校教育は拡大を続け、公立高等学校全体としては、昭和41年（定時制は昭和34年）に定員が最大となりました。生徒急増対策として昭和38年から43年にかけて普通科55名、職業科44名のすし詰め学級を体験された会員も多いことと思えます。

時代は移り、本県の中学校卒業生数は、平成15年3月約18,600人、平成23年3月には約14,900人に減少します。高等学校等への進学率は限りなく100%に近くなり、平成16年度には大学等への進学率が初めて50%を超えました。やがて大学全入の時代を迎えます。

このような中で平成13年2月「長崎県高等学校改革基本方針」が策定され、平成14年度から平成21年度にかけて実施される事業実施計画が相次いで示されました。小・中・高一貫教育の導入や高等学校の適正配置と統廃合はもとより総合学科の設置拡大や専門学科の改編が進められています。併せて、盲・ろう・養護学校の適正配置を含めた障害のある子どもの教育の充実対策も推進されています。

全国事務長会も大きな転換をしました。平成15年度の総会において、事務長の職務・職制の法律化及び処遇改善路線を変更し、文部科学省をはじめとする関係機関に政策提言できる職能団体として、研究研修活動に重点を移していくことを決議しました。

学校は教育改革のさなかにあります。自律経営推進予算やコミュニティスクールに代表されるように、それぞれの学校で新しい学校（開かれた学校、特色ある学校）づくりが進められています。その中で事務長には、学校経営の一翼を担う役割を果たすことが求められています。しかしながら総務、人事及び財務を管理統括する行政職員の長としての職責、また出納員としての職責に変容があったとは思えません。発足50周年を契機として、事務長の任務と役割について、原点に立ち返り、考えてみたいと思えます。

たしかに事務長の果たす役割は、ますます広範且つ重要になってきました。会員各位の叡智を結集して事務長としての職を全うしていきたいと思えます。

回 想

長崎県公立高等学校退職事務長会
会長 岡 藤 幸

長崎県公立高等学校において、昭和30年4月事務長制度が施行され、事務長会が発足してから50周年を迎えるに当たり、円滑な学校運営と本県教育の伸展に寄与された関係各位のご努力に深甚の敬意を表するとともに、今回の50周年記念を心からお喜び申し上げます。

顧みますと、長崎県公立高等学校事務長制度の施行30周年を迎えた昭和59年度においては、島原で総会を開催した折に、記念事業として、講演会や祝賀会等を実施し、更に昭和60年度には、九州地区公立高等学校事務長研究協議会の開催を本県が主管することになっていたので、開催準備等と重なり、原稿・資料の収集整理に追われながらも、関係各位のご協力により「30周年記念誌」を発行することができました。本県事務長会は、この記念誌の発刊を節目として、「教育の担い手」としての事務長職の確立を旨とし、精進・研さんに努め、本日まで本県教育の振興に寄与して来られたものと確信いたしております。本年度から、県教育庁の大きな組織改編がありました。事務長会においても、関係各方面からの多様な要請に対応できるよう、事務長の職の確立を一層強固なものにするためにも頑張ってください。

昭和50年度に結成された退職事務長会では、諫早における平成16年度総会において、発足30周年の記念撮影を行ない、OB会の結成に尽力された先輩各位に対して感謝の気持ちを捧げ、中地区の現役事務長さんを交えて、参加者皆さんで近況や昔を語りながら、親交を深めて楽しいひとときを過ごすことができました。

本年度において、会員数は143名となっておりますが、現役の皆様方との交流出合いのときを楽しみにしております。

● 事務職員 ●

協会ウォーキング

つながりの大切さ

島原高等学校 主事 大久保 慎 也

親戚が細胞分裂のように増えている。いとこが結婚しはじめているためだが、改めて人数を確認してみると、おじとおばが14人、いとこが15人、いとこの結婚相手とその子どもが18人で今や何と47人。これに父母及び妹夫婦とその子どもを加えると、全部で53人にもなる。まだ増えそうな勢いで、このままだと100人突破も夢ではなく、私の結婚式（そんな予定は残念ながらもまだないが）には、親戚だけで一体何人御招待しなければいけないのだろうかと考え

意見 異見 違見

漏水事件と省エネ

諫早商業高等学校 主任 有 川 弘 文

「もしもし、諫早市水道局です。使用量が例月の約2倍になってますけど漏水してませんか？」5月のある日、突然こんな電話がかかってきた。びっくりして、早速学校の敷地内外を漏水の痕跡がないか調査した。しかし、何処にもその痕跡がない。「これは、建物の下をとる配管が破損して漏水しているに違いない。業者に調査をお願いしないととても特定できないな。」ということで、業者にも調査をしてもらったがそれでも原因がつかめない。検針ミスも考えたが、メーターを確認するとそうでもない。この日から2時間おきにメーター確認を続けながら原因究明に乗りだした。間違いなくメーターは例月に比べるとハイペースで回っている。3月までと何が違った状況が起きていないのか疑問をいろいろと投げかけてみた。そこで行き着いたのが、3月末に竣工した教室棟大規模内部改修に伴うトイレの全面改修であった。早速、改修されたトイレの流水量を調整し様子を見てみるとどうだろう。効果がすぐに現れ始めた。どうも、きれいになったトイレの利用度が極端に上がった上に流水量が改修前に比べて大幅に増えた設定になっていたことが原因だったらしく、使用水量が落ち着き始めた。しばらく様子を見た結果、言うまでもなく6/7月分の例年より少し小額な請求書がそこにあった。

省エネ対策はこの学校も真剣に取り組んでいるところですが、身近なところに落とし穴があるものです。改修されたという既成概念が失敗を生み出したのかもしれない。水に限らず電気・ごみ等々様々な場面での日頃のチェックと意識改革が大きな省エネに繋がるということを再認識する必要があるのではないのでしょうか。

ると、夜も眠れず、未恐ろしい。

これだけ多くのおじ、おば、いとこは、私にとって父母及び兄弟姉妹のような存在である。祖父母の皆を大家族のように仲良く育てたいという教育方針があったらしい。そのおかげで、いろいろな考え方や、または周囲との調和というものを、身近な人間から学ぶことができた。このことは、今の私の財産となっていて、祖父母に非常に感謝している。

少子化が進み、身近な人間が少なくなっている中では、学校、職場あるいは地域等での人間関係のつながりが重要になってきていると思う。この他者とのつながりの輪を大人も子どもも自分で創る努力をして、大切にしながらどんどん広げ、お互いに理解しあえるようになることが、県内だけでなく、全国各地で相次いでいる少年事件を防ぐことができる一つの手ではないかと考えている。

会 員 漫 筆

茶の湯、その出会いと思い

上対馬高等学校 富 永 康 幸

随分と昔の話になってしまいます。昭和51年8月1日、暑い夏の日差しに照らされながら城門をくぐり、アコウの木陰を過ぎ、昭和初期の雰囲気を感じた玄関に入って行く。長崎県立五島高等学校、私の学校事務職員としての生活の始まりです。

以来、12年8ヶ月を五島で過ごし、今では思い出深い年月となってしまいました。その中で、私の心裡的重大事の一つとしては茶の湯との出会いでした。

赴任して、その年の10月に福江の木場絢先生の門をたたき、福江を去るその時まで実に丁寧に無心に指導していただきました。楽しい日々でありました。

ただ、茶名（指導者としての資格）まではとりませんでした。私のように未熟な人間がとるのはどうかなと思ったからで、それと茶道の世界の重みが肩に掛かってくるのが負担にも思ったからです。本来、気ままな性分なのでしょうか。

この五島での経験は川棚高校へ転勤して暫くしてから役にたちました。茶道部の指導を任されることになりました。お茶の作法はかなり合理的に出来ているので、理屈さえ分かれば理解しやすいのですが、まあ、人に教えるということは習うより難しいということは皆様ご承知のとおりです。一番多い年で総勢56名の部員がいて、一度に稽古をすることができず、5班に分け月曜から金曜

まで5回教えるようにしました。私の仕事の段取りもきつくはなりましたが、事務室のみんなの協力があってこそでしょう。感謝・感謝の日々でした。稽古のなかで、技術を伝え思いを伝えるということとは、自分の技術の高さが必要であり思いの強さに比例するものだと今になって思ったりします。

「その道に入らんとする心こそ我が身ながらの師匠なりけれ」
「稽古とは一より習い十を知り十よりかえるものその一」
一利休百首より一

どうでしょう。稽古事全般そして人の道をうまく表現した歌だと思いませんか。

私にはお茶との出会いがあり、多くのことをそこから学びました。現代のように忙しい時だからこそ、少し歩みを止めてみてはいかがでしょう。色々な出会いがそこにあり自分との出会いもあるかもしれません。その時々を大切にしたいものです。

人は、人と出会い人と別れ、自然と出会い自然と別れ、物と出会い物とも別れていく…いづれ別れていくものであるならば、その時どきを楽しく和を以て生きていきたい。けれど和だけでは馴れ合いになってしまう。そこで大切なことは互いに敬う心、我慢が必要なのですよ、と何かの本に書いてありましたが正にその通りですね。

「食」〈とん〉我が
我がと食する心を棄てて
気負い無く生きていき
たいものです。
最後に利休百首より一首
「茶の湯とは只湯をわか
し茶をたてて飲むば
かりなる事と知るべし」



先輩から

近況報告

貝田 泰久

週四日の嘱託としての勤務にも慣れ、漸く生活リズムが出来てきたところです。休日には、目下のところ野菜づくり、旅行、ドライブを兼ねた温泉めぐり等を楽しんでおります。

事務長会の御発展を

小園 勝朗

生かされています。皆様の御健勝と事務長会の御発展を祈っております。

官から民へ

橋村 鴻志

最近よく耳にします。私の勤務先の佐世保青少年の天地でも、県の指定管理者制度が導入され、近く民間会社も加った公募が行なわれます。官の存在意義は何なのかと考える此の頃です。

近況報告

久富 敏行

大変お世話になりました。四月より佐世保教育事務所に嘱託として勤務しています。生活のリズムは変わりましたが、時間的、精神的に余裕ができ、日本百名山完登を目指してトレーニングに励む毎日です。

健康維持に家庭菜園

藤澤 昶

退職後は、近くにある実家の少しばかりの畑に、きゅうり、トマト、ピーマン、なすび等、家庭菜園に精を出しております。出来栄はいまいちですが、秋にはサツマイモの収穫が楽しみです。

近況報告

村上喜代子

念願の自宅新築に取り掛かりました。四月二日に契約し、工事も順調に進み間もなく引き渡しの日を迎えます。ゆっくりにした生活は、暫く先になりそうです。皆様の健康をお祈りいたします。

退職雑感

渡辺 忠義

退職後、約半年「仕事を終え、ゆっくりに」の思いでいたが、所用・雑用で過ぎ去る日々が早く思う中、手抜きしていた松の剪定が今年は充分できたかと自己満足中。皆様の御活躍により会の御発展を祈念申し上げます。

ウチ

のこが
すばらしい

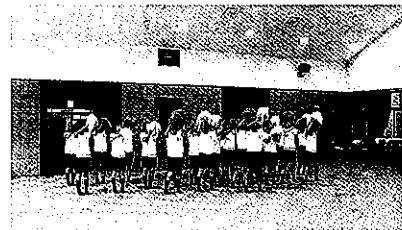
わが校自慢

壱岐高等学校 末 永 賢 一

ノックして「校長先生、私は甲子園球場に清峰高校の応援に行ってきました。云々…」と言う生徒の声が聞こえ、それに学校長が応えている様子が私の席から分かる時がよくある。そんな時、昔の師弟間を彷彿とさせ、心が和み自分一人で微笑んでいる。

我が校は、平成21年度に100周年を迎える伝統校であるが、校舎が老朽化のため雨漏りをするような状況であった。

そこで、平成14年度から3年かけて教室棟と管理教室棟を改築することとなり、全館バリアフリー設



コモンホールでの体育祭練習風景

計で身障者用トイレも完備している、光溢れる学舎が平成17年3月に完成した。

特にコモンホールと呼んでいる視聴覚教室は、200名程を収容することができる広さで、音響設備なども完備し、長崎県美術館や11月3日に完成予定の長崎歴史文化博物館とのテレビ会議システムを使った遠隔授業ができる。

本校にはこの新しい施設を使い、自分の「夢」実現に向かって、真摯に学校生活を送ろうとする生徒とそれに対して熱心に指導しようとする教員がいる。

随 想



学校のスピード

長崎県高等学校長協会長・長崎東高等学校長 寺 田 隆 士

民間は3週間、行政は3か月、学校では3年かかる。17年間社会科教員の仕事になじんだ私が、39歳で初めて教育行政の仕事に就いたときの感想である。スピードに面食らった。学校で3年間をかけて実現する新たな企画を、行政は3か月で実現する。民間の経験はないので、そのスピードを体感したことはないが、行政の対応の鈍さが云々されることから考えると、民間は同じことを3週間程度で実現するのだろう。もっとも、急速な教育改革に対応する必要から、学校のスピードは、以前に比べると随分速くなってはいる。

ところで、このスピードの違いは何故生じるのか、考えてみた。

まずはじめに、校務運営に関する仕事は、教員の三番目の仕事ということである。第一の仕事は、もちろん授業や補習、そのための教材研究、試験問題の作成や成績処理など教科指導に関する仕事。第二は、学級経営、生徒指導、進路指導、部活動など授業以外の様々な分野で直接生徒を指導する仕事。三番目に校務分掌がくる。しかも、校務分掌の仕事では、前年に倣って日々遅滞なく守備範囲の仕事を進めることが大切であり、新たな企画にけるエネルギーは、その残りをもってするということになる。このことは致し方ないのかもしれない。

第二には、学校には、企画専門の部署がないことである。運営委員会は連絡調整の機能が中心で企画の機能は薄い。教務や進路など各校務分掌で新たな企画が生まれることはあるが、他の分掌に影響を及

ぼさない範囲に自己規制する場合が多い。そのようなことから新たな企画は管理職自ら手がける場合が多くなる。「校長が変われば学校が変わる」という言葉を管理職研修で聞かされるが、裏を返せば、「校長を変えなければ学校は変わらない」ということなのかもしれない。

第三は、直接民主制的な風土があるということ。この傾向は規模の小さな学校に強く、小回りが利くはずの学校でスピードが遅い理由となっている。鍋ぶた型の組織といわれる学校には、全員で話し合って全員が納得した上でことを始めるという風土があるため、合意に時間がかかる。もちろん多数決での見切り発車はなじまない。併せて、原案なしの会議が多い。原案が出てもその問題点を指摘するだけの発言だけで、解決に向けた議論に進まないことが多い。大学ほどではないが、批評家が多いのも教員の世界の特徴である。

第四は、1年サイクルでの出直しという学校の宿命である。1年生を2年生に育てたら、また新しく1年生を迎えて最初からスタートする。学校はこの繰り返しである。行政にも同じ側面があると思うが、直線的に事が進む民間と違って、スパイラル的に進めることしかできないことがスピードの差につながっている。

第五。予算の問題。あてがい扶持の生活はやむを得ないところである。新たな企画ができて、予算を必要とすれば、次の年度まで待たなければならない。待っても予算化されないことが多い。ここがつらいところである。

以上のように、スピードに関して学校のハンディキャップは多い。しかし、せめて今の生徒が卒業する前にという思いで仕事をしたいものである。鍋ぶた型は、よく言えば「フラット型」である。「ピラミッド型」にない利点も多い。ボトムアップの手続きを経なくても直接意見を吸い上げることができる。三役による企画をもってのトップダウンがしやすい。プロジェクトチームが組みやすいなど。そのような利点を活かせば、もう少しスピードが増すはずである。

編 集 後 記



編集後記を担当することになった。日頃より筆無精の私は困り果て、すぐさまブレインストームの状態に陥った。早速既刊の『ばってん』の「編集後記」を参考書のように目の前に並びたて、悪戦苦闘するその姿は、傍から見ればカワウソの糞祭(ダッサイ)そのものに違いない。何よりもこの『ばってん』発刊のために気持ちよく原稿執筆を引き受けていただいた方々に感謝し、心よりお礼を申し上げます。

そして発刊前のすばらしい原稿を、だれよりも先に早く読むことができる編集担当の幸せをかみしめることができた。

『ウチのここがすばらしい』を執筆していただいた壱岐高校事務長末永氏は、老朽化した母校の52年

ぶりの建て替え時期に赴任されている。学校の事務長として、母校の建て替え時期に赴任出来るということは余程の時の巡りあわせがない限りかなわないことであろう。まさに奇跡に近い確率に違いない。

こういうことを事務長冥利に尽きるというのだろう。本当にご苦労様でございました。【さぞやその完成の日には、壱岐焼酎をあおられたことは想像に難くない。】記事の中でも述べておられるようにコモンホール的高速通信網とパソコンを駆使したテレビ会議システムは映像・音響ともに素晴らしいものです。たまたま私が壱岐高校を訪問中そのシステムのテストを県立美術館との間でしておられました。

そして、たまたま所用でそこを通られた県知事に校舎建て替えのお礼をすぐさま、その場で言われたのである。まさにそれは台本なしのドラマであった。私などその場の雰囲気か臆して、一言のお礼も申しあげることなど出来なかったに違いない。まだまだ勉強不足である自分を叱咤するばかりである。

(Y. T)